

18章 比較2

問題

【1】

解答・解説

- (1) 私たちは2000円しか払わなかった。
○ no more than ~ = only ~
- (2) 私たちが払ったのは多くても2000円だ。
○ not more than ~ = at most ~
- (3) 私たちは2000円も支払った。
○ no less than ~ = as much [many] as ~
- (4) 私たちは少なくとも2000円を支払った。
○ not less than ~ = at least ~
- (5) 日本人は中国人と同様に、アジア的ではありません。
○ A is no more B than C is. 「CがBでないのと同様に、AはBでない。」
- (6) 日本人は、中国人ほどアジア的ではありません。
○ A is not more B than C is. 「AはCほどBではない。」
- (7) 日本人は、中国人と同様にアジア的です。
○ A is no less B than C is. 「CがBであるのと同様に、AもBである。」
- (8) 日本人は、中国人以上にアジア的です。
○ A is not less B than C is. 「CがBであるのに勝るとも劣らず、AはBである。」
- (9) 犬がしっぽを振るのは、飼い主に対する愛情というよりむしろ、エサが欲しいからだ。
○ not so much A as B 「AというよりむしろB」
- (10) 知れば知るほど、信じられなくなる。[知識が深まるにつれ、懐疑心も生まれる。]
○ The + 比較級 + S' V, the + 比較級 + S V. 「S' V' であればあるほどますます S V」

【2】

解答・解説

- (1) **b** 「この大学構内の書店は遅くとも午前11時には開くでしょう。」
○ at the latest 「遅くとも」 ⇔ at the earliest 「最も早くて」
- (2) **d** 「その患者は薬を飲んだためにさらに悪くなった。」
○ all the + 比較級 + because S V [for + 名詞] 「S V [名詞] なのですから～」
○ the + 比較級で 「その分だけますます～」 という意味になる。
- (3) **c** 「私の教授は古今稀なほど優れた科学者だと言われています。」
He is such a rich man that he can buy anything. = He is so rich a man that he can buy anything. 同じように、as は比較の副詞のため、as a great painter とはならず、as great a painter という語順となる。

- as ~ as ever lived 「かつてないほど～だ；これまでの誰にも負けないほど～だ」
- (4) c 「彼女がその知らせを聞いた時、彼女は怒ったというよりむしろ狼狽した。」
 - not so much A as B 「AというよりむしろB」
- (5) c 「彼は冒険へと出発したが、その冒険は、異国への偏見を失えば失うほどますますすばらしくなっていった。」

意味から考えて、「偏見を失えば失うほどますますすばらしくなっていく」とすべきなので、dは不可。
- (6) a 「ニューヨーク暮らしの10年で、トーマスは12回も暴力犯罪の被害者になった。」
 - no less than ~ = as many as ~ 「～も」
- (7) b 「日光は、新鮮な空気と同様に、健康には必要なものだ。」
 - A is no less B than C is. 「CがBであるのと同様にAもBである。」
- (8) a 「その行動は15秒しかかからなかったが、その束の間のあいだに麻痺は彼を着実に蝕んでいった。」

in that brief moment とあるから、no more than = only を選ぶ。

 - numbness 「無感覚；かじかみ」
 - afflict 「～を苦しめる」
- (9) c 「確かに彼の計画は一考の価値があるけれど、私たちの計画も同じくらい重要であることを忘れないでください。」

as important (as his plan is) と読む。
- (10) c 「こんな天気では、私は魚釣りに行くよりむしろ家にいたいです。」

prefer A to B (BよりAが好き) という構文で、AとBがto不定詞の場合には、prefer to *do* rather than to *do* の形にするのが普通。

【3】

解答・解説

- (1) today when → today than when

「今日、父は、先月あなたにメールを書いた時よりもはるかによくなっている。」
先月『より』としなければ意味が通じない。
- (2) latest → last

「ジョンは正直で率直な人です。彼は絶対に自分の義務を怠らない人です。」
直訳は「自分の義務を怠るであろう最後の人」となる。
- (3) which を取る。

「私の一人息子が大学入試に合格すること以上に私を喜ばせることはないだろう。」
which を削って that 節にするのがポイント。
- (4) warm → warmer

「一般的に言って、ある場所が暖かくなればなるほど、それだけ多くの種類の動植物を育むことになる。」
The + 比較級 + S' V, the + 比較級 + S V. の構文である。
- (5) than → for

「誤りのない人はいない。だからその誤りがあってもそれでも変わらず夫を愛さなければなりません。」

○ none the less for + 名詞 [because S V] 「～であってもそれでもやはり…だ」

(6) was を取る。

「学べば学ぶほど無知もよくわかると言われるのをよく耳にする。」

時制から考えても was はおかしいと気づけるはずである。

(7) all the nervous → all the more nervous

「そのとき、自分を映す鏡が目の前になかったので、なおさら一層不安になった。」

○ all the + 比較級 + because S V 「S V のためなおさらいっそう～だ」

(8) it を取る。

「くつろいでください。つねられている程度の痛みしかないですよ。」

than (you would feel) if you were being pinched と考える。

(9) no dangerous → no more dangerous

「遺伝子を利己的に操作すること以上に危険な実験はないとその教授は主張した。」

than に対応する比較級がないことに注目する。またこの英文はクジラの公式 (A is no more B than C is. (C 同様 A は B でない)) ではないことにも注意。

(10) than を取る。

「私は集中している時、周囲の人たちのことは全く気にならない。」

I couldn't care less. (全く気にしません) の表現に注意。

cf. You couldn't care less. (全然注意してないね。)

I could not love you any better. (これ以上愛せないほど好きです。)

【4】

A.

全訳

新しい単語と出会わなければ、語彙を増やすことはできない。新しい単語に出会い、しかもそれを楽しむ最良の方法の1つはひたすら読書することである。たいていの有名な作家は、言語の達人たちの作品を読むことに長い時間をかけてきた。読めば読むほど、知らない単語に出会いそれを知る機会が増えるのである。

B.

全訳

①我々は自分がこうむっているストレスに気づいていないことが多いので、ストレスの調整がより一層困難になる。ストレスによる影響を、大望や完璧主義や仕事への献身といったような動機によって他の方向へ向けることに、我々は熟練した。②しかし「潜在性のストレス」の影響は、簡単には認識できないため、より一層処置するのが困難だ。

C.

全訳

全ての大陸の中で、北アメリカでの野生の鳥や動物の数の減少が最も著しいが、そこでは社会の工業化が非常に急速に進められてきた。野生の鳥や動物の中にはもはや姿を見ることが

ができないものもいる。その他の多くの種の中でいまだ野生の状態で生きているのはほんの少数である。アメリカ政府は109種もの鳥や動物が保護を必要としているということを明らかにしている。

D.

全訳

弟の自慢のカブトムシの体長は15cmもある。弟はレコードを聞くのと同様に昆虫採集にも興味を持っている。

【5】

解答

- (1) these buildings
- (2) 人類が出現した時の状態により近いから。(19字)
- (3) d
- (4) ① c ② a ③ b ④ d
- (5) 「全訳」の下線部①, ②, ④参照。

解説

- (1) 人々が「何よりもまず実用性を基準に評価する」のは何かを考える。
- (2) 直後に not because … but because ~ の文が続く。この構文の表す意味は「…だからではなく～だからだ」なので、but because 以下の内容を20字以内の日本語にまとめれば良い。
- (3) in other words「言い換えれば」とあることから、この部分は前に述べられたことを言い換えている部分であるということがわかる。前に to protect them against other powers which are, to them, as real as the forces of nature (彼らにとって自然の力と同じくらい現実のものである他の力から自分たちを守るため)とあるので、**d 災難から逃れるため**を選ぶ。
- (4)
 - ① pattern「①模範 ②原型 ③模様；図案 ④(行動などの)傾向」
 - a すぐれた、あるいは理想的な例〔=模範〕
 - b 特有の型、原型、形
 - c 平面上に規則的に繰り返される特に線や形や色の配列
 - d 写し取るために、ある形に切り抜かれた、あるいは型どられた物
 - ② first and foremost「まず第一に」
 - a まず第一に b 初めて c 多くて、せいぜい d 最初は
 - ③ utility「有用；実用性」
 - a 1つの完全体である状態
 - b 実用性
 - c 家で使われるあらゆる道具
 - d 何かの使い方
 - ④ image「①姿；形 ②生き写し；よく似た人 ③像；彫像；画像；偶像 ④彫像；写像

それらは単なる芸術作品ではなくて、明確な機能を持つ物と見なされた。家がどういう必要のために建てられたのかを知らなければ、家の善し悪しをうまく判断できないだろう。同様に、過去の芸術が果たさなくてはならなかった目的について全く知らなければ、我々には過去の芸術は理解できそうもない。④我々が歴史をずっとさかのほればさかのほるほど、芸術が果たすべく持っていた目的はますます明確になるが、またいっそう不可解にもなる。

これと同じことが当てはまるのは、我々が都会を離れて農民たちの所へ行ったりする場合、あるいは、より一層当てはまるのは、我々が自分たちの文明国を離れて、我々の遠い祖先が暮らしていた状態と今でも似た暮らし方をしている民族の所へ旅をしたりする場合である。このような人達を「原始人〔未開民族〕」と呼ぶのは、彼らが我々よりも単純であるからではなくて（むしろ彼らの思考過程のほうが複雑なことも多い）かつて全ての人類が出現した時の状態に彼らのほうが近いからである。このような原始人の間では、有用性に関する限り、建築と像の制作との間に区別はない。彼らの小屋は、雨や風や日光とそれらを創り出す精霊から彼らを保護するためにある。そして像が作られるのは、彼らにとっては自然の力と同じくらい現実のものである他の力から自分たちを守るためである。言い換えれば、絵や彫刻は厄除けに使われるのだ。

注

- ℓ. 1 ◇ If we take art to mean ~ 「もし我々が芸術が~を意味すると受け取れば」 take は「受けとめる；理解する」の意。
- ℓ. 2 ◇ such A as B 「BのようなA」
- ℓ. 4 ◇ If, on the other hand, we mean by art ~ 「また他方で、もし我々が芸術によって~を意味するならば」
 - on the other hand 「他方で」
 - mean O by ~ 「~によってOを意味する」 Oが後置された形。
cf. What do you mean by that?
(あなたはもうどうつもりでそんなことを言うのですか。)
 - ◇ some kind of beautiful luxury は直後の something to enjoy in museums and exhibitions or something special to use as a precious decoration in the best parlor によって言い換えられている。
 - luxury [ˈlʌɡʒəri] 「贅沢品；豪華さ」
- ℓ. 5 ◇ exhibition [ˌeksəˈbɪʃən] 「展覧会」 cf. exhibit [ɪɡzɪbɪt] v.
 - ◇ as 「~として」《前置詞》
- ℓ. 6 ◇ parlor 「店；居間；応接間；休憩室；応接室」
 - ◇ realize は2つの that 節を目的語にとる。
[that this use of ~ と (and) that many of ...]
- ℓ. 7 ◇ sculptor：彫刻家
 - ◇ it は this use of the word を表す。「この語のそのような使い方」
 - the word = art
「芸術」という言葉を、何かの美しい贅沢品か、美術館や展覧会で楽しむべきものか、この上なく立派な特別休憩室の高価な装飾品として使う何か特別なものを表すのに

使うことを指す。

◇ We can best understand this difference if ~ 「我々は～すればこの違いを最も良く理解できる」

ℓ. 8 ◇ architecture [ˌɑːrkɪtɛktʃər] 「建築」 < architect 「建築家」

◇ We all know *that* there are beautiful buildings and *that* some of them are true works of art. 「美しい建物があり、その中には真の芸術作品もあることは皆が知っている。」

○ know は2つの that 節を目的語にとる。

ℓ. 9 ◇ scarcely any 「ほとんど…ない」と not が共に用いられた二重否定であることに注意する。

○ there is scarcely any … which was not ~ 「～でなかった…はほとんどない → たいていの…は～である」

ℓ. 10 ◇ Those who … 「…する人々」

ℓ. 11 ◇ worship 「崇拜；礼拝」

◇ dwelling 「住居」 *cf.* dwell *v.*

ℓ. 13 ◇ apart from ~ 「①～と離れて ②～はさておき」 = aside from (米)

ℓ. 14 ◇ appreciate 「～を理解する；ありがたく思う；正しく評価する」

◇ the efforts of the good architect to make it not only practical but 'right' 「それ (= the structure) を実用的なだけでなく「適切に」もしようとする優れた建築家の努力」

○ efforts to *do* 「…しようという努力」

○ make O C 「OをCにする」

○ not only A but (also) B 「AだけではなくB」

ℓ. 15 ◇ They were not thought of *as* mere works of art but *as* objects which had a definite function 「それら (= paintings and statues) は単なる芸術品として考えられていたのではなく、明確な機能を持つ物体とみなされていた」

< think of A as B 「AをBとみなす」

○ not A but B 「AではなくB」

○ They were not thought of as A but as B 「AとしてではなくBとして考えられていた」

ℓ. 16 ◇ He would be a poor judge of houses who did not know the requirements for which they were built. : 関係詞節に条件の含まれた仮定法過去の文。

= If a man *did* not know the requirements for which they were built, he *would* be a poor judge of houses 「家がどういふ必要のために建てられたのかを知らなければ、家の善し悪しをうまく判断できないだろう。」

ℓ. 17 ◇ poor : ここでは「へたな；不得意な」の意。

◇ judge : 名詞用法で「判断する人；評論家」の意。

◇ which は requirements を先行詞とする関係代名詞。

< they were built for the requirements (前置詞 + 関係代名詞)

- ◇ requirement 「必要とされるもの；必要条件」
- ℓ. 18 ◇ similarly 「類似して；同様に」
- ◇ likely to *do* 「…しそうで」
- ◇ ignorant of ~ 「～を知らなくて」
- ◇ the aims (that) it had to serve と関係詞を補って考える。こういった形の英文の場合、文脈によって ① had [have] to = must と解すべき場合と、② to … が先行詞を修飾する形容詞用法の to 不定詞であると解すべき場合とがある。この場合どちらともとれる。
- ① 芸術が果たさなければならなかった目的。< it had to serve the aims
- ② 芸術が果たすべく持っていた目的。< it had aims to serve
- ℓ. 21 ◇ The same applies 「同じことが当てはまる」
- apply *vi.* 「①当てはまる ②求める；志願する」
- ℓ. 22 ◇ peoples：ここでは「民族」の意。
- 〔「人々」の意の *people* は不可算名詞であることに注意〕
- ◇ resemble 「～に似ている」
- ℓ. 23 ◇ the conditions in which our remote ancestors lived 「我々の遠い祖先が暮らしていた状態」
- which は conditions を先行詞とする関係代名詞。
- < our remote ancestors lived in the conditions (前置詞＋関係代名詞)
- remote 「遠い；離れた」
- ancestor 「祖先」⇔ descendant, offspring 「子孫」
- ◇ primitive *n.* 「原始時代の人(物)；素朴な人」 *adj.* 「原始の；原始的な」
- ◇ *not because* they are simpler than we are <挿入> *but because* they are closer to the state from which all mankind once emerged 「彼らが我々よりも単純だからではなく、全ての人間が昔現れた時の状態に彼らが(我々よりも)近いからである」
- not because A but because B 「AだからではなくBだから」
- ℓ. 25 ◇ state 「状態」
- ◇ which は state を先行詞とする関係代名詞。
- < all mankind once emerged *from* the state (前置詞＋関係代名詞)
- ℓ. 26 ◇ once 「一度；昔」
- (接続詞の *once* は「いったん…すると」の意味を表す。)
- ◇ emerge from ~ 「～から現れる；出てくる」
- ◇ there is no difference *between* building *and* image-making 「建築と像の制作との間に区別はない」
- ℓ. 27 ◇ as far as S is concerned 「Sに関する限り」
- ◇ Their huts are there to shelter them from ~ 「彼らの小屋は～から彼らを保護するためにそこにある」
- hut 「小屋」
- to shelter ~ 「～を守るために」《目的を表す副詞用法の不定詞》

ℓ. 28 ◇ spirit 「精霊」

◇ images are made to protect them against ~ 「像は彼らを~から守るために作られる」《目的を表す副詞用法の不定詞》

ℓ. 29 ◇ to them 「彼らにとって」は挿入句。

◇ as ~ as … 「…と同じくらい~」

ℓ. 30 ◇ in other words 「言い換えれば」

【6】

解答・解説

(1) 「君はそんな話を信じるほどばかりではないはずだ。」

○「そんな話を信じてはだめだ。」の意。

○ know better than to do 「…するほどばかりではない」

(2) 「留学の計画を立てる時は、慎重になればなるほど、成功する見込みは高くなる。」

○ ‘The + 比較級~, the + 比較級 …’ で「~すればするほど、それだけますます…」という意味。

○ plan …ing 「…する計画を立てる」

your は studying の意味上の主語。

Ex. I don't like *her speaking* ill of others.

(私は彼女が他人の悪口を言うのを好まない。)

(3) 「私たちは予想していたよりも、ずっと多くの人に会うことができた。」

○ than の後には名詞(句)だけでなく、このように文が続くこともある。

Ex. It was more expensive *than I thought*.

(それは私が思っていたよりも高価だった。)

○ expect した時点のほうが、see much more people した時点よりも前なので、had expected と過去完了形が使われているが、慣用的に than we expected と過去形が使われることもある。

(4) 「私は時々、友達と一緒にいるよりも一人でいたいと思う時がある。」

○ prefer A to B 「BよりもAを好む」

ここではAに当たるのが being alone, Bに当たるのが being with my friends である。

(5) 「彼女は6つもの言語を、とてもうまく話すことができる。」

○ as ~ as …の‘~’に数量・期間などを表す語句が入った場合は、「…もの；…ほど」のように強調を表す。

Ex. The temple was built *as early as* 8th century.

(その寺院は早くも8世紀には建てられた。)

【7】

解答・解説

- (1) are ; no fewer

「この公園には 300 本もの木が植えられている。」

上の英文は

In this park are planted as many as 300 trees.

M V C S

と倒置構文になっている。

- (2) second longest

「アマゾン川は世界で 2 番目に長い川である。」

but は except の意味で、上の英文は「1つを除いて一番長い = 2 番目に長い」となる。

- (3) We, eat, amount, we need

「私たちは毎日必要とする量の 2 倍多くのナトリウムを摂取していると言われている。」

cf. It is said that he died in Mexico. = He is said to have died in Mexico.

(彼はメキシコで死んだと言われている。)

○ sodium 「ナトリウム」

- (4) never seen, as ; never seen, exciting a, as

「これほど興奮させる映画を見たことはこれまでなかった。」

such an exciting movie as this を書き換える際に、as exciting a movie as this の語順になる点に注意。

- (5) better

「彼の演技は申し分なかった。」

○ leave nothing to be desired 「申し分ない」

○ S couldn't have been better. 「S はこれ以上よくなりようがなかった。→ S はこれで最高だった。」

- (6) As, longer, stay, less

「部屋代について言えば、長く滞在すればするほど支払う代金は少なくなる。」

○ when it comes to ~ 「~ということになると」

○ as for ~ 「~について言えば」

【8】

解答

- (1) It's a shame to stay indoors on a nice day like this.

- (2) You know something, Ms. Shirai? Most Americans are out of town in the summer.

- (3) Mr. Ishimori has been good at drawing caricatures since he was a child.

- (4) She seems to write a better hand than I do.

- (5) You never can tell.

- (6) Don't speak too soon.

- (7) I can't stand hot weather, and my brother cold weather.

(8) That American can carry his drinks.

解説

(1) 「…するなんてもったいない」という、やりきれない気持ちを表す時、最もよく用いられるのが、It's a shame to *do*. のパターンである。本問は、このパターンを用いればよい。

○ 「家の中にいる」

stay		indoors
		in

keep		indoors
		in

○ 「こんな天気のいい日に」

on a		nice		day like this
		fine		

on such a nice day

in such nice weather

such を用いると formality の度合いが高くなる。

また、weather は形容詞を伴っても不加算名詞として働く点に注意。それでは、本問のパターンを用いた例文をあげておこう。

It's a shame to get rid of it. (それをなくすなんてもったいない。)

It's a shame to quit the job so soon.

(そんなにすぐに仕事をやめるなんてもったいないな。)

It's a shame to sell your house.

(家を売りに出すなんてもったいないな。)

(2) 「あのね」とか「こんなことご存知ですか」と話を切り出す時の決まり文句は、

You know what? または You know something?

これらの表現はあくまでも親しい間柄でのみ用いられ、正式な場面では用いられない点に注意。

また、You know what [You know something]? と言われた方は、Know what? [What?]
と、上昇調で言うのが慣用で、これはかなり英語に慣れた人でもとっさには出てこないの
で、ここで体にたたきこんでおこう。

○ 「たいていのアメリカ人」は、① most of American ② most Americans の2つが
考えられるが、

①は「特定のアメリカ人の大部分」の意味であり、

②は「一般のアメリカ人の大部分」の意味である。

したがって、ここでは、①の most of American は不適。

○ 「街にいない」は、be out of town

○ 「夏に」は in the summer; in summer。

米語では、「夏には」という意味の時でも、「その夏には」という意味でも、in the
summer を用いるが、イギリス英語では、「夏には」が in summer、「その夏には」が in
the summer と区別するというのが、インフォーマントのコメントである。

(3) 「石森君」は Mr. Ishimori でも Ishimori でもよい。日本語の「君」に Mr. が対応する
訳ではない点に注意。「マンガ」に対応する語には、comic, cartoon, caricature などが

あるが comic は「マンガ本」, cartoon は通例「1 コマの時事風刺マンガ」, caricature は「人のくせ、特徴などを誇張したマンガ」である。本問は「石森君は子供の頃からマンガを描くのがうまかった」という内容なので、おそらく友人の似顔絵など特徴をとらえて書くのがうまかったのだろう。したがって、caricature が一番適している、と考える。ここでは特定のマンガを言っているのではないので無限大を表す「無冠詞の複数形」という形にする。

「描く」は「鉛筆・クレヨンなど線で描く」場合は draw, 「彩色して描く」場合は paint。ここは前者。

なお日本語の「かく」に対応する英語は多数あるので注意を要する。

cf. 「ボールペンで書く」 write with a ball-point pen

「詩を書く」 compose a poem

「この掲示板にそう書いてある。」 The notice says so.

「ここに住所と名前を書きなさい。」

Please put down your name and address here.

「富士山の水彩画を描いている」 He is painting Mt. Fuji in watercolors.

「虫に刺されたところをかいている」 He is scratching an insect bite.

「子供の頃から～がうまかった」は現在完了形を用いて、～ has been good at …ing since he was a child [his childhood] . とする。

(4) 本問は「どうも～のようだ」とあるので seem to *do* の形を用いる。「字がうまい〔汚い〕」には write a good [poor ; bad] hand という表現が当てはまる。もちろん be good at writing を用いて She is good at writing. としてもよい。

以上を、比較級を用いてまとめれば、

She seems to write better than I do.

または、

She seems to be better at writing than I am.

となる。

than I で終わってしまうと pedantic (学者ぶった) な感じがするので、than I do, than I am にする。than me は現実的には用いられるが、文法上は正しくないとされるので試験では避ける。

(5) 日本語の「わかる」は、

① 「内容を理解する」 understand ; comprehend

② 「すでに知っている」 know

③ 「情報・観察・経験などから知る」 learn

④ 「はっきり言い切る」 tell

⑤ 「発見する」 find ; discover

⑥ 「判明する」 turn out ; prove out

⑦ 「事実として認める」 recognize

⑧ 「区別できる」 can tell ; know

⑨ 「察する」 sense

に分類されるが、本問は④にあたり、この場合の tell は、can を伴うのが普通である。
したがって、

You | never can tell.
| can never tell.

が正解。You で始めるという条件がなければ、

Nobody can tell. ; Who can tell?

としてもよい。いずれにしても、tell 1 語だけで「先のことがわかる」という意味合いを含むので、口語表現としてたたきこんでおく必要がある。

(6) 「それを言うのはまだ早い」と、結論をはやく言い過ぎる相手をたしなめる時の決まり文句は、

Don't speak too soon.

である。「この先どうなるかわからないのだから、それを言うのはまだ早い」という意味合いを含む。

Ex. A : Business is picking up, and that means a pay raise.

B : Don't speak too soon.

(景気がよくなってきたから給料が上がるぞ。)(それを言うのはまだ早い。)

(7) 「～に弱い」は、そのまま英語にするとうまくいかないことが多い。「～に耐えられない」と考えれば、can't stand ～, 「～の影響を容易に受ける」と考えれば、be easily affected by ～ ; be sensitive to ～ となる。

「暑さ」は heat, 「寒さ」は cold となるが、より具体的に考えて、hot weather, cold weather としてもよい。この際、weather は形容詞がついても不可算名詞のままである点に注意。以上をまとめれば、

I | can't stand
| am easily affected by
| am sensitive to | heat [hot weather].

and my brother | can't stand
| is easily affected by
| is sensitive to | cold [cold weather].

となる。後半の共通部分を省略して、高2なら誰でも書けるすっきりした文にしたのが解答例である。

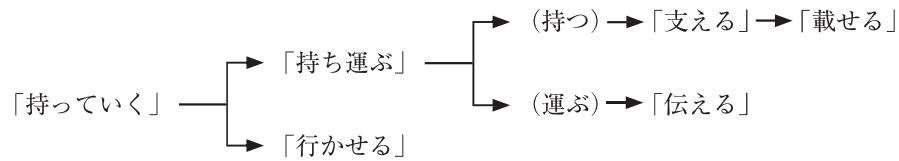
(8) 「アルコールに強い」は、「お酒に強い」ということだから、「たくさんお酒を飲める」と考えて、

That American can drink quite a lot.

また「大酒飲みだ」と考えれば、

That American is a heavy drinker.

とすればよいが、ここでは carry を用いた表現を確認しておこう。英和辞典の carry の項目をじっくり読みこんでほしい。carry は「持っていく」が基本的な意味で、



と展開することがわかるはずである。

この中の「支える」の分義に「(酒量)に耐えられる; 乱れないで(酒)を飲む; (酒)を顔に出さない」という意味がある。本問はこの用法が当てはまり、もう少し細部まで辞書を読みこめば、この場合、目的語は his [her] drinks となる、という情報を得ることができる。以上をまとめると、

That American can carry his [her] drinks.

が解答となる。

なお、テキサス州出身の米国人インフォーマントによると、carry の代わりに hold を用いて

That American can hold his [her] drinks.

でもよい。また、I am strong in my drinks. では何を言っているのかわからないとのことである。

今日の一言

Actions speak louder than words. 「言葉より行動の方が雄弁だ。」

勉強を進めていくと、「～先生はこの参考書を勧めていた」とか「～君はこの授業を取れっ
て言っていた」などいろいろな情報が入ってくることだろう。しかし何より大切なのは、
参考書を買うことでも授業を取ることもなく、参考書を読んだり授業を受けたりしなが
ら「自分で考える」という行動を起こすことである。

受身の姿勢で授業を受けるのではなく、自ら率先して取り組んでいこう。